

## 目 次

|                                     |       |    |
|-------------------------------------|-------|----|
| 【巻頭言】 恩師 三善晃先生とたばこ .....            | 舟橋三十子 | 2  |
| 【随 想】 鉄道と音楽（東北編） .....              | 渡会 純一 | 3  |
| 【海外だより】 ベルリン公演・ピアノ・会場・瀧廉太郎記念碑 ..... | 河原 千尋 | 5  |
| 新入会員紹介 .....                        |       | 6  |
| 日本音楽表現学会後援コンサート等情報 .....            |       | 7  |
| 日本音楽表現学会会員による新刊・CD 等リリース .....      |       | 8  |
| 事務局からの重要なお知らせとお願い .....             |       | 9  |
| 大会発表申込の〆切日変更について .....              |       | 11 |
| 日本音楽表現学会第 17 回（かきつばた）大会のご案内 .....   |       | 12 |
| 2018 年度役員・委員等一覧 .....               |       | 12 |
| 編集後記 .....                          |       | 12 |

## 日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail : music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

## 恩師 三善晃先生とたばこ

日本音楽表現学会事務局長 舟橋三十子（作曲）

郷里の静岡から毎週末、始発の新幹線で、東京・吉祥寺の池内友次郎先生のご自宅に和声のレッスンのため通っていたのは、もう半世紀以上前のことになる。当時先生は、高校生の私から見ると、いつも着物を着ていらしたせいかもしれないが、かなりご年配で初老という感じだった。今から思うと、先生は、現在の私の年齢よりもお若かったはずなのだが、当時の私の両親よりも年上であっただろうし、その風格から、ご老人にみえたとしても不思議ではなかったのだと思う。

その池内先生から、「三善くんの所に通って、ソナタを教えてくださいなさい。」と言われ、当時阿佐ヶ谷北に住んでおられた三善晃先生のもとに、毎日曜に通うこととなった。音楽雑誌等の写真でみる三善先生は、いかにもクラシックの作曲家という繊細なイメージで、私自身がまだ訪れたこともないフランス帰りの先鋭的な芸術家という雰囲気醸し出しており、憧れに満ちた気持ちで毎回レッスンに通ったことを覚えている。

現在では、禁煙、嫌煙、受動喫煙反対と、たばこが健康に悪いという運動がマスコミを賑わしているが、当時は「芸術家とたばこ」「芸術家と葉巻」、が一つのイメージを作り上げていた。当然、三善先生の作曲のレッスンも、たばこの煙をくゆらせて行われていた。私書き上げた習作をピアノの譜面台に置いて、じつと黙っておられる先生のレッスンでは、長い沈黙の後には何を言われるのか、ドキドキしながら、横に座って待っていたことが思い起こされる。

レッスンを受けている立場としては、先生のお話より、長く伸びたたばこの灰が、いつピアノの鍵盤上に落ちるのか、気が気でなかった。「先生は気にならないのだろうか」と思わず手を差し出したくなるような状態で、私の神経がたばこの灰の行方の方についてしまっていた。その時は、貴重な恩師のお話どころではないという状況だった。先生のお話は、時々フランス語が混じり、高校生の私にとっては、格調高いのは分かるのだが、その単語の言わんとしていることを理解するには、余りにも哲学的で難しかった。当時の私

には、正に「猫に小判」であったと思う。

「エトスはね……」「エクリチュールは……」という先生の声が、今でも聞こえてくるような気がする。高校生の時から大学院まで、数年にわたる肝心の作曲の勉強は、少しも受け継ぐことはできなかったけれど、個人レッスンの時に感じたフランスの文化の香りだけは、今でも懐かしく思い出すことができる。

「さあ、クレープ・シュゼットを食べに行こう」とレッスンを終わった後に連れて行って下さったお店で、先生が「いつもの」と仰って、昼食に必ず召し上がっていた、プレーン・オムレツとイタリアン・サラダも、今では若者たちにも馴染みあるメニューかもしれないが、当時の私には、まったく未知の食べ物だったように記憶している。

6月の折り鶴大会で、分科会の司会を担当することになり、久しぶりに先生のオーケストラ曲を耳にした。改めて当時のことを振り返り、ノスタルジックな気持ちになると同時に、作曲家 三善晃の弟子であることを誇りに思った。一生懸命教えて下さった先生の教育に、現在の私はお恩を返すことができているのだろうか、と自問自答している。

今夜は、久しぶりに恩師の作品を改めて聴き直し、音楽を自分の専門として勉強しようと決意した、大昔の私の原点を今一度かみしめたいと思っている。



## 鉄道と音楽（主に東北編）

財務担当理事 渡会 純一

（初等音楽科教育、ピアノ、リコーダー、トランペットなど）

筆者の周辺で音楽が好きな仲間には、鉄道もこよなく愛する人が数多いことに気づく。そこで、今回は鉄道と音楽の関係性について、東北の現状を中心に書いてみる。

はじめに、筆者が勤める大学では「鉄道交流ステーション」というものがあり、筆者も運営委員をしている。年に3回企画展を実施しており、昨年度の実施の中で「鉄道のオノマトペ」という企画がなされた。内容としては、「ガタン・ゴトン」「シュッシュ・ポッポ」「ビュワーン」など言葉として表現された「オノマトペ」を、その技術から説明し、また技術発展の歴史もみてみようという企画展であった。渡会ゼミの学生は、著作権の関係でレコードを再生不可能な鉄道にまつわる唱歌を数曲録音し、その企画で流すこととなった。録音は数回行い、筆者がピアノ伴奏を弾き、数名の学生が歌唱した。録音されたデータは展示用のiPadにて自動再生された。昭和前半の懐かしい空気感を出すのに多少苦労もしたが、ゼミ生とともに企画展に貢献できたことが嬉しい。

このような音も、広い意味で鉄道にまつわる音楽として挙げられる。だが、そこに出てくるオノマトペは走行音が殆どで、興味のない人にとっては雑音でしかなかった。しかしながら、その雑音をオノマトペとして表現し、唱歌に取り込むことで、鉄道と音楽をつなぎ合わせようとする動きは、上記の唱歌等を通して昔からあったものと思われる。

さて、かつての鉄道風景で音程があるものと思われるのが「車内チャイム」や「駅弁売りの掛け声」程度であろうか。思ったほど多くはなかった。その中でも駅弁では、列車の窓を開けることができた急行列車などにおいて、駅弁売りの声を聞いては窓を開け、窓越しに弁当とお茶を購入したことを、うる覚えながら記憶している。もしかすると、ホーム中に響く歌声をもつ人が売り上げを伸ばしていたのかもしれない。

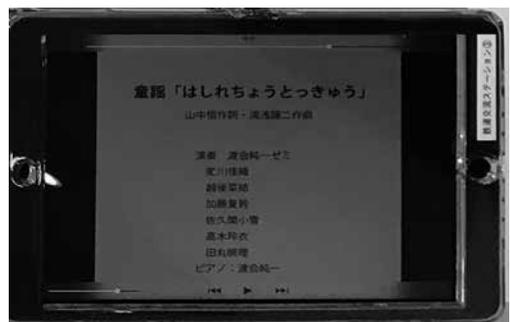
それと比べて、現在鉄道で流れる音楽はというと、「発車メロディ」「車内チャイム」「列車接近メロディ」、また列車によっては「音階の警笛（ミュージックホーン）」など、以前よりも大幅に増えていると言えよう。ちなみに、列車接近メロディは西日本に多い印象がある。車内チャイムについてはかつてからあるのだろうが、「ハイケンスのセレナーデ」や「鉄道唱歌」「アルプスの牧場」などを最近聞かない。そう思うのは、筆者が最近在来線の特急やイベント列車に乗っていないからなのかもしれ



【写真1 「鉄道のオノマトペ」ポスター】



【写真2 「鉄道のオノマトペ」展示風景】



【写真3 「鉄道のオノマトペ」視聴用iPad】

れない。

それとは別に、列車そのものの走行音を音階で表すことのできるものもあった。京浜急行の一部の列車やJRのE501系などでは、列車発車時にfから上のgまでの9度音程で、なぜか変口長調の音階が順次進行で鳴っていた。残念ながらこれらの列車は、部品の交換とともに「歌わなく」なったとのことだ。また、東北地方だと東北新幹線のE2系や山形新幹線のE3系などで、発車してすぐのときは上のgあたりの音が鳴り響き、しばらくしてからオクターブ下のa音あたりからじわじわと上へポルタメントしていく音が聞こえる。楽音に聞こえる関係上、強引に「鉄道の奏でるメロディ」として考えてもよいのかもしれない。もっとも楽音に聞こえるのは筆者が音楽を愛好する人間だからというものもあるだろう。

さて、車内チャイムに耳を移すと、開通当時の東北新幹線には、到着時の音楽が駅ごとに異なる「ふるさとチャイム」というものがあった。仙台駅は<斎太郎節>、郡山駅は<会津磐梯山>、上野駅は<花>といった感じである。しかしながらこれらのチャイムは1991年に廃止され、すべての新幹線駅チャイムは常磐線の北千住駅の一部で使用されていた発車メロディをアレンジしたものに統一された。新たな新幹線駅の追加や新幹線自体の延長開業などもあったので仕方がないことかもしれないが、個人的に寂しかったことを覚えている。

1988年には、仙台駅にてJRでは日本初となる「発車メロディ」が榊原光裕氏により設定された。当時の仙台駅では在来線がさとう宗幸氏の名歌「青葉城恋唄」をモチーフとしたもの、新幹線の方はオリジナルソングであった。どちらの音源も発車を知らせ急がせるという目的からか、最後が派手なサウンドになっている。なお、仙台駅では途中でメロディをストップすることはまずなく、最後まで再生されるが、繰り返しはしない。

この「青葉城恋唄」が、榊原氏の再編曲により2016年から新幹線ホームの発車メロディとして流れるようになった。仙台フィルハーモニー管弦楽団の録音ということもあり、聴くとやや優しい雰囲気演奏で、例えるならば「発車するから急いで乗車」というよりも「仙台から旅立ってしまうのが寂しい」という雰囲気の発車メロディとを感じる。仙台にお越しの際は、帰りに新幹線のデッキから外の音が聞こえる場所で聴いてみてほしい。しみじみした気分になる。このような発車メロディも珍しいのではないだろうか。

現在では音楽があらゆるところで流れている。しかもスピーカーの音量上昇および音質向上等によって、ともすれば同時に複数の場所から音による情報が溢れ、聴覚による識別ができにくくなっている。このことにより、必要な情報を聞き漏らす可能性もあり、憂慮すべき点である。鉄道の世界を音が包み込むことで、鉄道の旅がよりパッケージとして楽しめるようになるよう、また旅だけでなく通勤通学も多少快適になるよう、音楽を愛する鉄道ファンの一人として有効的な活用を考えていきたい。



【海外だより】

## ベルリン公演・ピアノ・会場・瀧廉太郎記念碑

河原 千尋 (ピアノ)

この秋、10月20日(土)に私はベルリンのLindenkirche Berlin Wilmersdorfにおいて「Konzert für Klavier CHIHIRO KAWAHARA」というタイトルのコンサートを開きました。主な曲目は、J.S.Bachの〈ファンタジーとフーガ e-moll BWV904〉〈パルティータ e-moll BWV 830〉、ベートーヴェンのソナタ〈テンペスト〉、瀧廉太郎の〈憾<sup>うらみ</sup> Bedauernswerth〉などです。

会場となったリンデン教会のピアノ、ブリュートナーは、高音部に4本目の共鳴弦(アリコート)が張られていることが特徴のドイツが誇るピアノです。少し古さを感じさせま



ましたが、ベルリン在住の日本人調律師、岡本恭一氏の素晴らしい力で、ブリュートナーの魅力が見事によみがえりました。プログラムの第一部に組まれたバッハの作品2曲に焦点を当てた平均律調律と、アリコートの効果を見越した調整、倍音の響きを捉えた整音は、私の音楽表現の大きな支えになりました。そして、弾いている音の響きがまるで見えていると錯覚するような空気感は、日本のホールでは体感したことのないものでした。集中して聴いてくださった聴衆からは鳴りやまぬ拍手もいただき、緊張感の中ではありましたが幸せも感じました。

プログラムには、6月の折り鶴大会で研究発表させていただいた、瀧廉太郎の遺作〈憾〉(自筆譜)も加え、彼の心情を慮って演奏しました。トルコの現代作曲家ファジル・サイの後、スペインのアルベニスの前に演奏したこの作品が、聴衆に違和感なく受け止められたことに、彼がドイツで勉強したわずかな期間に西洋音楽の真髄に迫っていたことを感じました。また、「むしろ穏やかで内的な表現」と捉えられた言葉をいただき、幾ばくかもない余命の中にありながらも、それを意識させない希望さえ見えるような音楽への愛溢れる世界がこの作品にあることの確信を得ました。教会の豊潤な響きのおかげでそのように感じられ、また演奏できたと思います。



ライプツィヒで、瀧廉太郎が留学中のわずかの間下宿した場所に建てられた記念碑を訪れましたが、それはライプツィヒ音楽院から徒歩2分ほどの場所でした。胸の病が発覚し8か月間現地で療養し、その後2か月間かけて帰国した彼の心情を察するに余りあるものがありました。

【写真右上】 リンデン教会でのコンサート

【写真左下】 日本語で書かれた瀧廉太郎の記念碑の側で

---

## 新入会員紹介

---

個人情報につき削除しています。

## 日本音楽表現学会後援コンサート等情報

---

- 佐野晴美さん きょうことばこんさあと  
日 時：2018年9月16日(日) 14:00 開演  
会 場：京都 長谷川家歴史・文化交流の家  
料 金：2000円  
主 催：佐野晴美  
後 援：武庫川女子大学 大阪音楽大学 他  
演奏者名：佐野晴美 (m. Sop.)  
曲 目：嵐野英彦 作曲、白川淑 作詞《京ことばによる歌曲集》  
問合せ先：info@rippou-c.com / 050-5241-8429
- 金谷康佑さん 金谷こうすけピアノコンサート  
日 時：2018年10月18日(木) 18:30 開場 19:00 開演 21:00 終演  
会 場：兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール  
料 金：前売 & 当日 3000円 / 全席指定  
出 演 者：金谷こうすけ、他  
曲 目：ユーラシアの風 (オリジナル) DIARY (オリジナル)  
問合せ先：芸術文化センターチケットオフィス TEL/0798-68-0255
- 河原千尋さん **Konzert für Klavier CHIHIRO KAWAHARA**  
日 時：2018年10月20日(土) 19:00 開演  
会 場：Lindenkirche Berlin Wilmersdorf  
主 催：七の界  
料 金：無料  
主な曲目：J.S.Bach/Fantasie und Fuge a-moll BWV904、Rentaro Taki  
〈Bedauernswerth (憾)〉、他
- 日高桃子さん 琉球古雅の調べⅡ  
日 時：2018年11月3日(土祝) 午後3時開演  
会 場：求道会館 (東京都文京区本郷)  
料 金：2500円  
出 演 者：日高桃子、他  
主な曲目：数珠節・稲まづん節・永良部節・湛水流暁節  
問合せ先：桃山会 080-1238-3216
- 田中宏明さん 田中宏明ピアノ・リサイタル  
日 時：2018年11月23日(金・祝) 15:00 開演  
会 場：水戸芸術館コンサートホール ATM  
料 金：一般 3000円、ユース (25歳以下) 2000円 (前売り 1500円)  
主催後援：公益財団法人 水戸市芸術振興財団、田中宏明  
主な曲目：バッハ 〈半音階的幻想曲とフーガ ニ短調 BWV903〉  
山口哲人：〈もののあはれ〉 (委嘱作品・初演)

安藤政輝さん 安藤政輝リサイタル「宮城道雄全作品連続演奏会 19」  
日 時：2019年4月24日（水）19:00 開演  
会 場：紀尾井小ホール (JR、東京メトロ 四ツ谷駅下車)  
料 金：前売：4,500 円／当日売：5,000 円  
後 援：(公財)日本伝統文化振興財団  
演奏者名：安藤政輝、安藤珠希、他  
曲 目：《手事》《虫の歌》《子守唄》《社頭の寒梅》《もんぺ姿》他  
チケット・問合せ先：メール：ando.masateru@gmail.com

谷真子さん 谷真子ピアノソロリサイタル  
日 時：2019年6月30日（日）14:00 開演  
会 場：秋篠音楽堂  
主催後援：東京音楽大学校友会関西支部後援  
曲 目：シューベルト〈即興曲 Op.90-2,3,4〉、バッハ＝ブゾーニ〈シャコンヌ〉、他

---

## 日本音楽表現学会会員による新刊・CD 等リリース

---

後藤 丹さん [楽譜] ピアノ曲集「風透る街に」  
発行年月日：2018年9月15日  
出 版 社：全音楽譜出版社  
定 価：1,600 円 + 税  
ISBN978-4-11-178616-9

後藤 丹さん [CD] 「ピアノ曲集《風透る街に》」  
発行年月日：2018年9月15日  
制作・販売：株式会社フォンテック  
演 奏：高木 裕美 (ピアノ)  
定 価：2700 円 + 税

杉浦菜々子さん [CD] 「山田耕筰ピアノ作品集《子供と叔父さん(おったん)》」  
—原典に基づく秘曲集—CD 初収録作品を中心に  
校閲・監修：杉浦菜々子他  
発行年月日：2018年11月14日  
制作・販売：ディスククラシカ  
定 価：2700 円 (税込)  
問い合わせ・販売 URL：<https://nanakom.thebase.in/>

## 事務局からの重要なお知らせとお願い

### 1. 年会費の納入について

#### (1) 年会費の納入期間：4月中にお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。期限内に納入がなければ、発表申込みや原稿投稿ができません。また、その年度の総会までに3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。年会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。

#### (2) 振込方法：同封のゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」をご利用ください。

電信での送金は、内容確認が困難であり混乱の原因となります。学会では、財務局での入金確認作業を確実にするため、デザイン室で印字した「払込取扱票」の利用をお願いしております。何卒ご協力ください。

振込先：郵便局の振込口座 01370-6-78225 名義：日本音楽表現学会

\* 海外在住等、国内でのお振込みが難しい方は、事務局へご相談ください。

#### (3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へ問い合わせを

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)を領収書として保管ください。大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

#### (4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから以下の

書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

「年会費減免願」書式 (20170321 版)：

|   |       |
|---|-------|
| <b>被災による年会費減免願</b>                                      |       |
| 年   | 月     |
| 日   |       |
| 日本音楽表現学会  |       |
| 会長 後藤 丹 様   |       |
| このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。 |       |
| なお、(□□□□)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。                 |       |
| 氏 名：  | _____ |
| 現在の連絡先：   | _____ |
| 連絡先電話番号：  | _____ |
| e-mail アドレス：  | _____ |
| 減免申請の理由 (具体的に納付困難の理由をお記しください。)                          |       |

### 2. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせを

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

### 3. 学会会員のサポート制度

#### (1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点銘記してください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

ちなみに投稿〆切は5月15日です。

## (2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。応募〆切は、本年度から2月15日です。会員が500名を超えているために、エントリー締め切り間際のリマインドメールは送られません。申込み期日を明記してください。

## 4. 会員への情報公開

### (1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内。

### (2) コンサート等の後援・協賛

本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請 フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニュースレターにも案内を掲載させていただきます。

[コンサート等後援／協賛申請フォーム]

以下の項目それぞれ1行で39字以内を原則とする。

|  |
|--|
| (文例) 以下のコンサートの後援をお願いします。<br>会員氏名： _____<br>演奏会タイトル： _____<br>日 時： _____<br>会 場： _____<br>料 金： _____<br>出演者 (会員)： _____<br>主な曲目： _____<br>問い合わせ先： ホール電話番号 _____<br>*個人の携帯番号・メールアドレスはセキュリティ上、<br>本会としてはHPには記載いたしません。 |
|--|

### (3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名 (会員)、書名 (ISBN)、出版社、価格 (税込)、購入方法なども含めてお知らせください。ニュースレターとHPに掲載します。

### (4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

## 5. 学会発刊の書籍の販売について

**長らく絶版となっていたVol.1を復刻しました!**

### (1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法：

メール等で事務局までお申し込みください。

以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

| Vol. | 会員価格 (1部) | 一般価格 (1部) |
|------|-----------|-----------|
| 1～3  | 2,500円+送料 | 3,000円+送料 |
| 4～14 | 3,000円+送料 | 3,500円+送料 |
| 15以降 | 2,500円+送料 | 3,000円+送料 |

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

### (2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中

会員価格にて購入いただけます。

購入申込：メールで事務局までお申し込み下さい。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金：『フィールド2』に専用振込票を同封します。

加入者：日本音楽表現学会

口 座：01370-6-78225

#### [購入申込書]

|  |
|--|
| 『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。<br>氏 名： _____<br>部 数： _____<br>送 付 先： _____<br>連絡用 E-mail： _____ |
|--|

## 6. 入会手続きについて

- ・入会申込みは随時受け付けます。入会申込書は次頁のフォーム、またはHPからフォームをダウンロードしてメールで学会事務局へお申し込みください。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

- ・学会からの連絡 (印刷物お届けなど) は、ご記入いただいた「連絡先」に送付します。

- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

- ★『音楽表現学』への投稿や大会での発表の申込みには本会会員であることが条件です。手続きには時間がかかります。次年度の大会発表希望者、『音楽表現学』投稿希望者は、2018年12月15日までに会員資格を取得してください。申込み〆切等についてはp.9の該当項目をご覧ください。

[入会申込書フォーム]

|                     |         |
|---------------------|---------|
| <b>入 会 申 込 書</b>    |         |
| 日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 |         |
| 年 月 日               |         |
| 氏名 (ふりがな) :         | _____   |
| 専門分野 :              | _____   |
| 所 属 :               | _____   |
| 自宅住所 :              | 〒 _____ |
| 連絡先 : (上記と異なる場合) 〒  | _____   |
| 連絡先 Tel. :          | _____   |
| e-mail :            | _____   |
| 推薦者名 (学会員・1名)       | _____   |

7. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。

- ① 「退会届」をHPからダウンロードし、事務局に提出
  - ② その年度までの年会費完納
  - ③ 理事会の承認
- 「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばし

にしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

[退会願フォーム]

|                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| <b>退 会 願</b>                        |       |
| 年 月 日                               |       |
| 日本音楽表現学会                            |       |
| 会長 後藤 丹 様                           |       |
| このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。 |       |
| なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。  |       |
| 氏 名 :                               | _____ |
| 連絡先 :                               | _____ |
| 連絡先 Tel. :                          | _____ |
| e-mail :                            | _____ |
| 退会理由 :                              | _____ |

---

## 大会発表申込のメ切日変更について

---

大会発表が最近激増しています。これまでの体制と日程進行では賄えなくなってきました。こうした事態に対応すべく2018年度総会では「大会プログラム編成チーム」の立ち上げが決定しています。プログラミングと順調な大会運営のために、以下の項目について会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

① 発表申込メ切日の変更について

従来よりも約2週間早く、2月15日とします。第17回(かきつばた)大会の発表申込メ切は**2019年2月15日(金)**です。そのつもりで準備をお願いいたします。

② 入会→大会発表をご希望の方へ

大会発表ができるのは「会員」に限られています。会員資格をお持ちでない発表希望者、共同発表希望者には、まず入会していただくかなければなりません。

発表申込メ切日の変更に伴って発表希望者の会員資格取得期限を12月15日とします。入会希望者の「申込書」を受け取ってから、年会費納入の確認等、全ての入会手続きを完了するに

は日数を要します。

周りに入会→大会発表希望の知人がいらっしゃる方にはこのことをお伝えいただきますよう、また、入会希望者にはこのことを銘記していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。



## 日本音楽表現学会第 17 回（かきつばた）大会のご案内

会 場：愛知教育大学（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1）

会 期：2019 年 6 月 15 日（土）～ 16 日（日）

### 実行委員会

委員長：新山王政和（愛知教育大学）

事務局長：國府 華子（愛知教育大学）

実行委員：疇地 希美（同朋大学）      北山 敦康（元静岡大学）      嶋田ひろみ（愛知教育大学）

高橋摩衣子（皇學館大學）      坪井眞里子（名古屋女子大学）      麓 洋介（愛知教育大学）

補佐：小野 志織（愛教大院生）      鈴木 杜萌（愛教大学部生）

大会運営委員：様子を見ながら依頼します。

### 実行委員会からのメッセージ

愛知教育大学の所在地は刈谷市です。しかし、交通機関は JR ではなく、名古屋鉄道名古屋本線をご利用戴くことになります。大学行のバスが出ている最寄駅は「名古屋鉄道：知立駅ちりゅう」です。JR 刈谷駅からは距離があり、バスの便もよくないのでくれぐれもご注意ください。なお、ホテルの手配はお早めをお願いします。

### 2018 年度役員・委員等一覧

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p>会 長：後藤 丹</p> <p>副 会 長：加藤富美子 山名 敏之</p> <p>事 務 局 長：舟橋三十子</p> <p>財 務 局 長：海津 幸子</p> <p>理 事：小野 亮祐（事務局担当）</p> <p style="padding-left: 2em;">渡会 純一（財務局担当）</p> <p style="padding-left: 2em;">安藤 珠希（総務担当）</p> <p style="padding-left: 2em;">澤田まゆみ（総務担当）</p> <p>編集委員会：</p> <p style="padding-left: 2em;">委員長 吉永 誠吾</p> <p style="padding-left: 2em;">副委員長 水戸 博道</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 大竹 紀子 尾見 敦子</p> <p style="padding-left: 2em;">上山 典子 齊藤 武</p> <p style="padding-left: 2em;">中 磯子 宮本賢二朗</p> | <p>著作権ワーキング：</p> <p style="padding-left: 2em;">代表 中村 滋延</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 近藤 晶子</p> <p style="padding-left: 2em;">酒井 勇也</p> <p style="padding-left: 2em;">高橋 豊</p> <p style="padding-left: 2em;">福本 康之</p> <p>選挙管理委員会：</p> <p style="padding-left: 2em;">委員長 笹野恵理子</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 大澤 智恵</p> <p style="padding-left: 2em;">樫下 達也</p> <p>監事：            應和 恵子</p> <p style="padding-left: 2em;">小川 有紀</p> | <p>会長諮問会議：安藤 政輝</p> <p style="padding-left: 2em;">小西 潤子</p> <p style="padding-left: 2em;">佐々木正利</p> <p style="padding-left: 2em;">杉江 淑子</p> <p style="padding-left: 2em;">豊田 典子</p> <p>参事：(事務局) 似内裕美子</p> <p style="padding-left: 2em;">松井 萌</p> <p style="padding-left: 2em;">近藤 晶子</p> <p>デザイン室長：奥 忍</p> <p style="padding-left: 2em;">(スタッフ： 松宮 和子)</p> |
|---|--|--|

### 編 集 後 記

7 月からの新役員体制、まだまだ慣れぬままあつという間の 4 ヶ月でしたが、来年 6 月の「かきつばた大会」に向け、着々と準備が始まっています。近年の大会発表数と会員の増加により、大会発表の申し込み締め切りが 2 週間ほど早まります。師走の到来とともに、大会発表のこともどうぞご検討ください。

今号も新入会員の紹介から会員のコンサート、新刊・CD 情報等が掲載されています。会員が増えてきたからこそ、お一人お一人の顔や活動がなお一層紹介できるよう、皆様から音楽表現に関するご意見や研究ノート、随想などもお待ちしております。図表等を含めて刷り上がり 1 頁サイズで投稿先は学会事務局へお願いいたします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

クリスマスとお正月、皆様どのようなご計画でしょうか。新たな元号となる 2019 年が本学会にとってますますらしい年になることを祈りつつ。

(澤田まゆみ)